

山門の建物は、入母屋造り本瓦葺きの楼門です。総持寺の象徴的な建物で、台地の先端に建てられ平野を眺望しています。

1) 山門（仁王門）

茨木市指定有形文化財

江戸時代中期（18世紀初頭）

総持寺仁王門は、三間一戸、入母屋造、本瓦葺の楼門です。

仁王門は総持寺では山門と呼び、寺の正門として象徴的な建築物です。

楼門形式の門としては、北摂地方には勝尾寺（箕面市）、久安寺（池田市）、総持寺（茨木市）の3棟のみが現存する。

総持寺は、本堂をはじめ、仁王門、薬師金堂、宝蔵など9棟が、平成28年に茨木市指定文化財になっています。

2) 金剛力士像



写真の仁王門には**金剛力士像**が目を見開き、怒りの表情で立っています。

左：仁王像「吽形（うんぎょう）像」

右：仁王像「阿形（あぎょう）像」

7. 本堂 千手十一面観音安置

政朝2歳の時、父高房について太宰府へ赴く途中、淀川に落ち大亀に助けられたことから、日頃信仰する初瀬観音のおかげであると本尊の彫造に傾注したといわれる。



「山門」内側の広場奥正面に豊臣秀頼が再建したといわれる「**本堂**」（左の写真）が建てられている。

本尊：千手十一面観音

亀乗り観音：政朝の造立。

脇侍：善女竜王像、雨宝童子像（桃山時代）